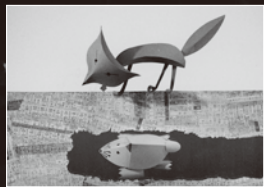


邑(むら)の映画会実行委員会は、群馬県の「映像教育」の発展を目指し、世界で製作された多様な映画作品の上映やワークショップ活動を行っています。この会を通して、子どもたちが夢をふくらませ、映像文化によって心豊かな感性が育めることを願っています。



ホーム・マイホーム

1970年/日本/4分/35mm/カラー
監督: 岡本忠成

「モグラは土の中 キツネは土の上
モグラはあなをほる キツネははなをふる...」2ひきはしらすに、おなじように、ある・いて・た!!」歌のリズムにのって、くしゃみしたり、とびあがったり。ことしの夏休み、東京のフィルムセンターでえいがをみて、子どもスタッフがえらびました。「音楽があるからいい!!」4分のなかにアニメーション映画の動きのおもしろさをとりこんだ。紙でつくったかわいいいどうぶつがうごくよ。毎日映画コンクール大藤信郎賞受賞



くつやとこびと

1960年/日本/14分/35mm/カラー
監督: 神保まつえ

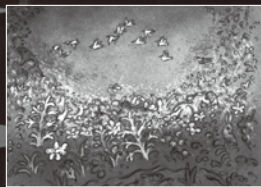
くつやのおじいさんは、毎日くつを作ります。「もう、くつを作る皮がない。あすは最後のくつを作りましたよ!」おじいさんは言います。するとどうでしょう。その夜、こびとがやってきて、トントン、ギコギコ、朝にはすてきなくつがありました。次の夜も、また次の夜も、みんなで歌をうたいながら、くつをつくって帰ります。グリム童話のお話をアニメーション映画にしました。心のやさしいおじいさんとおばあさんとこびとたちの人形が、たのしい音楽にのって動くよ。



雌牛 めうし

1989年/ロシア/10分/35mm/カラー
監督: アレクサンドル・ペドロフ

ロシアの大地。その場に生きる農夫とその家族。生まれた子牛は売られていった。雌牛は悲しみ、汽車にひかれて死んでいった。大きなスクリーンに映し出されるやさしい目の雌牛と、よりそう農夫の息子。この映画、生きることの永遠の愛を描いた祈りの世界。見る者の心をとらえて離さない。監督のデビュー作。ガラス板に油えのぐで描かれた一枚一枚の絵が動くよ。広島国際アニメーションフェスティバルグランプリ受賞



トゥ・リアン

1978年/カナダ/11分/35mm/カラー
監督: フレデリック・バック

星はかがやき、太陽はキラキラ光る。宇宙に地球が生まれ、海には魚、空には鳥。地上には動物、人も生まれた。自然と共に暮らし、喜びあふれる世界。けれど、いつしか、人間が、あれも欲しい!! これも欲しい!! あまりにも好き勝手にするものだから、生きものは殺され、木は切り倒され、ごみはあふれ...。でもね、あるとき、人の心によりかえる。森へ、海へ、帰ろう。まあいい、まあいい、地球へ帰ろう。七色かがやく、地球へ...。© Société Radio-Canada



ドタバタ撮影所

1910年代/アメリカ/11分/16mm/白黒/実写/スタッフ・キャスト詳細不明

男が車にはねられた。その車に乗っていた女優を追いかけ、映画の撮影所にもぐりこむ。撮影中の着ぐるみのシロクマを本物と間違えたところから、撮影はメチャクチャに。そこに本物のライオンが現れて、てんやわんやの大騒動。逃げ回る男と動物のギャグまたギャグの連続で、今から100年も前に作られた無声映画の傑作喜劇。試写でみた子どもたちはハラハラ、ドキドキ、お腹を抱えて笑ったり...。おもしろい映画を上映しよう! と、子どもたちが選びました。



道

1954年/イタリア/115分/35mm/白黒
監督: フェデリコ・フェリーニ

世界には決して忘れられることのない映画が何本もある。巨匠フェデリコ・フェリーニ監督のこの映画は、間違いなくその一本だ。日本での公開は1957年。半世紀以上も前のこの傑作を、まだこうしてスクリーンで見ることの出来るのは、なんとも幸せなことだ。粗野な旅芸人、ザンパロと、ただただ天使のように無垢な、貧しい育ちの娘、ジェルソミーナとの、痛切極まりない映画である。

©BETA FILM. All Rights Reserved.

講演 「映画は祈り」

歩いているとき、目は、ぶつからないように、転ばないように、身の安全を確かめて、ものを見ている。目は、私たちの行動とともにある。しかし映画を見ている私たちは、行動していない。ただ見ているだけだ。静物画で描かれたリングが食べられないのといっしょで、自分では食べられない映画の中のリングを見ている。その時の目は、現実の有用性から離れている。自由になっている。では離れて、なにを見ているのか。目が祈っている、映画を見ている、そう思うときはありませんか。

邑の映画会顧問 映画監督 小栗康平

プロフィール

1945年前橋市生まれ。早稲田大学第二文学部演劇専修卒。81年の監督第一回作品「泥の河」はモスクワ映画祭銀賞、米アカデミー賞外国語映画賞ノミネートなど高い評価を受け、以後、84年「伽椰子のために」(仏ジョルジュ・サドゥール賞)、90年「死の棘」(カンヌ映画祭グランプリ・カンヌ1990/国際批評家連盟賞)、96年の県人口200万人記念映画「眠る男」(モントリオール映画祭審査委員特別大賞)、05年「埋もれ木」(カンヌ映画祭特別上映作品)、2015年日仏合作映画「FOUJITA」公開。著書「時間をほどく」「映画を見る眼」「見ること、在ること」「哀切と痛切」。「小栗康平コレクション」DVD単品愛蔵版「泥の河」「伽椰子のために」「死の棘」「眠る男」「埋もれ木」(駒草出版)・著書「じっとしている唄」(白水社)発売中。



会場交通案内

東武小泉線本中野駅より徒歩5分。北関東自動車道太田・桐生I.Cより20分。

- 主催 □ 邑の映画会実行委員会/邑楽郡邑楽町光善寺275-2 邑楽町教育委員会
- 協力 □ 東京国立近代美術館フィルムセンター
株式会社 エコー社
株式会社 学研教育アイ・シー・ティー
株式会社 KADOKAWA
株式会社 スタジオジブリ
株式会社 マツダ映画社
- 協賛 □ 館林西ロータリークラブ/社会福祉法人館邑会
朝日印刷工業株式会社/高源寺/恩林寺
大信寺/加藤医院
- 後援 □ 邑楽町立小中学校PTA連合会/邑楽町立幼稚園
PTA連合会/邑楽町立保育園保護者会連絡協議会/風の子保育園保護者会/邑楽町文化協会/邑楽町公民館・おうらやングプラザ・長柄公民館・各利用団体連絡協議会/群馬県/群馬県教育委員会/館林市教育委員会/板倉町教育委員会/明和町教育委員会/千代田町教育委員会/大泉町教育委員会/上毛新聞社/朝日新聞社前橋総局/毎日新聞前橋支局/読売新聞前橋支局/産経新聞前橋支局/東京新聞前橋支局/群馬テレビ/エフエム群馬
- 公式サイト □ <http://kenokuni.jp/muracinema>

